



乳腺センターが開設して1年経ちました

乳腺センター 副センター長 かどや たかゆき
角舎 学行

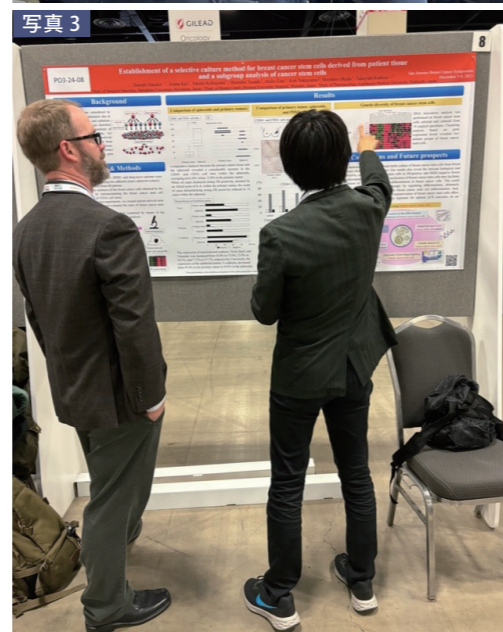
乳腺センターは、多部門、多職種のメンバーにより、より高いレベルの乳がん診療をすることを目的に昨年4月に開設されました。その後は当院内の連携も密になり、島根県東部のがん拠点病院や近隣の乳腺クリニックとも定期的に乳がんの勉強会を開催するなど、院外との連携も進んでいます。

センター開設後1年間の乳がんの手術数は過去最多の146例になり、県外の患者さんからも受診申込をいただくようになりました。内視鏡を使った手術も開始し、傷が目立たない綺麗な乳房を残すことも出来るようになってきました。新規薬剤の国際治験にも参加するなど、世界最先端の治療を当院で受けられるようになりました。乳腺外科医が2名から5名に増え、新規患者さんをほぼ毎日診察出来るようになりました。ぜひ患者さんをご紹介いただければ幸いです。

乳がん啓発活動も積極的に行い、昨年10月のピンクリボン月間には乳腺センタースタッフと学生が力を合わせて出雲大社をピンクにライトアップしました(写真1)。1月には出雲西高校で出張講演を行い、若い世代にも乳がん検診の大切さをアピールしました(写真2)。

昨年12月に開催された、世界で最も大きな乳がんの学会であるサンアントニオ乳がんシンポジウムにて末岡医師が研究成果を発表するなど、乳がん研究もスタートしています(写真3)。

乳腺センターの設立後、乳がん治療の深みと活動の幅が広がってきました。今後も乳腺センターの成果をどんどん国内および世界に向け発信して参ります。

問い合わせ先 **外科外来・乳腺センター** TEL:0853-20-2384

CONTENTS

表紙: 膠原病内科 診療科長 一瀬 邦弘

中表紙

- ・病院長補佐就任のご挨拶
- ・島根IMATの創設について

裏表紙

- ・乳腺センターが開設して1年経ちました

病院長補佐就任のご挨拶



地域医療政策センター 教授 こんどう まさひろ
近藤 正宏

4月より病院長補佐(安全管理担当)を拝命いたしました地域医療政策センターの近藤正宏です。4月から医師の働き方改革が始まりました。この働き方改革は単に医師の健康を守るだけではなく、医師が万全の体調で医療に向き合うことによってより安全な医療の提供にもつながってまいります。病院長補佐として医師の働き方改革にしっかり取り組み、より安全な医療の提供に貢献できればと考えています。何卒よろしく願いいたします。



医療情報部 准教授 かわむら としひこ
河村 敏彦

4月より病院長補佐(経営担当)を拝命しました河村敏彦です。専門はデータサイエンス、経営工学です。経営工学とは、経営活動を取り巻く現象を統計的に理解してそれを適切にマネジメントすることで、合理化・効率化を図る工学です。これらの根拠となる医療情報システムを構築し、その蓄積されたビッグデータに基づいて意思決定を支援することで、戦略的な病院経営の実現と医療の質の向上に寄与したいと考えております。ご支援、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



薬剤部 准教授 やの たかひさ
矢野 貴久

4月より病院長補佐(安全管理担当)を拝命しました薬剤部の矢野貴久です。医薬品安全管理責任者ならびに麻薬管理者としても務めており、医薬品の安全使用や適正管理を守り、患者さんに安心して治療を受けていただけるよう微力ながら尽力いたします。

昨今では、医薬品の製造や供給に問題が生じる事例が多く発生しており、地域での情報共有や連携も重要性が増しています。皆様方からのご指導とご支援を賜りたく、何卒よろしく願い申し上げます。

写真1



(Incident Medical Assistance Team)

島根IMATの創設について

高度外傷センター センター長 わたなべ ひろあき
渡部 広明

事件現場において銃器等で負傷した傷病者に対して、現場で直ちに外科的治療を含む救命処置を実施できる医療派遣チーム、IMAT (Incident Medical Assistance Team : 事件現場医療派遣チーム) をこのたび創設し、島根県警察本部との間で協定書を締結いたしました(写真1)。

近年、銃器やナイフなどの凶器を持った立てこもり事件などのニュースを見かけることが多くなりました。このような事件現場で負傷した傷病者に対しては、現場からの医療介入を必要とするものは少なくありません。しかし現場から医療機関への搬送に時間を要し、治療の甲斐なく死亡する事件も発生しています。特に銃器による負傷者への治療開始までのタイムリミットは短く、搬送後の治療では救命できないケースは少なくありません。近年、出雲市内においても凶器を持った立てこもり事件が発生しており、こうした事件性のある医療介入ニーズは都市だけのものではなく始めている。

このたび島根県警察本部から、島根県にもぜひIMATを創設したいという依頼をいただき、当センターの医師、看護師、救急救命士の3職種で島根IMATを編成しました。島根IMATは県警からの依頼を受け、数分で事件現場へ出動できる体制を整備しています。当センター所属の医師および看護師は、銃創や爆傷などの特殊外傷に対して外科的治療を修練する厚生労働省外傷外科医等養成事業研修の修了者と指導者が多く所属しており、専門スタッフでIMATを編成しているのが特徴の一つです。万が一の事件の際に、助けることのできる命を助けるためのこの取り組みは必要な事業であると考えております。

今後、島根県警察本部との合同訓練等を通じて隊員の練度を上げて参ります。

問い合わせ先

高度外傷センター 医局 TEL:0853-20-2757



ご報告

2019年
以降

島根県では維持透析患者数の増加が 引き続き抑制されています！

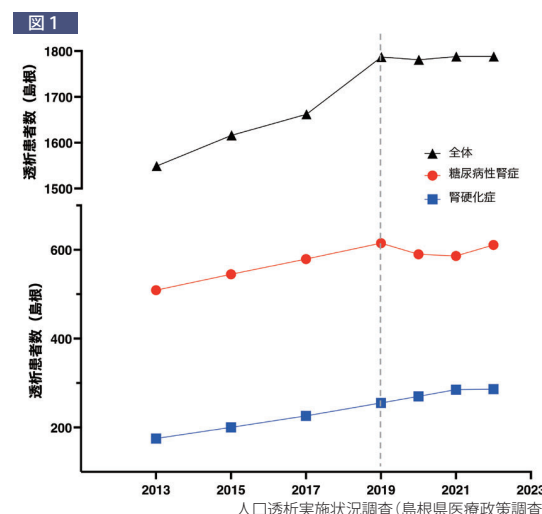
内分泌代謝内科 診療科長 かなさき けいぞう
統合腎疾患制御研究・開発センター センター長 金崎 啓造

これまで他の都道府県同様、島根県においても慢性維持透析患者数が増加していました。しかし、2019年以降、エビデンスを重視した糖尿病合併症制御を目指した積極的介入を推進したことに関連して、糖尿病性腎症に伴う透析患者の増加が抑制され、全透析患者数の増加も抑制されています(図1)。

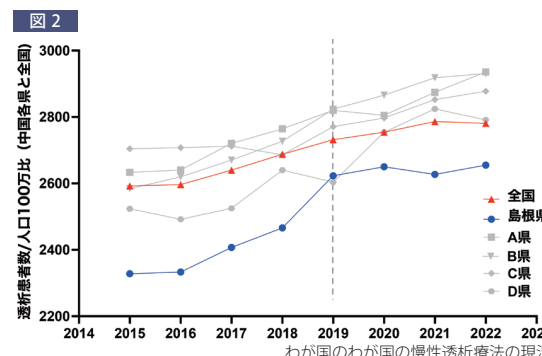
さらに中国地方各県の人口100万人あたりの透析患者数の推移を比較検討したところ、島根県のみで2019年以降の有意な増加抑制が得られています(図2)。

今日ではSGLT2阻害薬が広く慢性腎臓病の進展抑制に寄与することは周知の事実であり、糖尿病性腎症に対しては非ステロイド型ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬フィネレノンの有効性が示され、GLP-1受容体作動薬にも同様の腎保護効果がある可能性も知られています。これら最新エビデンスの応用により、多くの症例において透析導入を著しく遅延・抑制させることも可能となっています。一方で、薬は万能ではなく注意深い観察が必要で、多くの進行性腎疾患はリフィルなどで漫然と管理できる疾病ではありません。

皆様とともに島根県を「最新エビデンスの適切・積極的導入を介して透析患者数の減少に成功した」というモデルケースとして発信して参りましょう。糖尿病性腎症を始めとした糖尿病合併症の制御、肥満や高血圧など生活習慣に関連する疾病の腎障害進展抑制に対して、ぜひ内分泌代謝内科をご利用ください。



島根県における慢性維持透析患者数(全体、糖尿病性腎症、腎硬化症)
島根県では2019以降糖尿病性腎症による透析患者数は増加が抑制され、透析患者数全体の増加も抑制されている。



中国地方各県と全国の透析患者数推移(人口100万人比)
2019年以降、中国地方では島根県のみで統計学的に有意な(F=9.959, DFn=1, DFd=5, P=0.0252)な透析患者数増加抑制が得られている。

問合せ先 内科学講座内科学第一 事務室 TEL: 0853-20-2183



お知らせ

non-tuberculosis mycobacteria NTM(非結核性抗酸菌症)専門外来について

呼吸器・化学療法内科 診療科長 いそべ たけし
磯部 威

結核の罹患数、死亡数が減少傾向にあるのに反して、非結核性抗酸菌症は罹患数、死亡数共に増加し、2014年には結核の罹患率を超えました。日本における菌種は *M.avium*、*M.intracellulare* (MAC症) が8~9割を占め、*M.kansasii*、*M.abscessus* の順に多くなっています。いずれも、自然界の土壌、水系(浴槽、シャワー)などに生息する環境生息菌で菌を含むエアロゾルを経気道的に吸引して感染します。進行は緩徐であることが多い疾患ですが、難治性、再発性の疾患で、多剤併用の薬物療法が必要です。2021年に難治性肺MAC症に対してアミカシンリポソーム吸入用懸濁液が適応を取得し治療の幅が広がりました。また、2023年に成人非結核性抗酸菌症化学療法に関する見解が日本結核・非結核性抗酸菌症学会、日本呼吸器学会から示され、治療戦略が明確になっています。CT画像、培養検査と薬剤感受性や臨床経過を考慮し、症例ごとに選択薬剤を決定する必要があります。

医療機関の先生方におかれましては、非結核性抗酸菌症が疑われる患者さんや、治療、管理方法にお困りの患者さんがおられましたら、当院のNTM(非結核性抗酸菌症)専門外来に紹介していただくと幸いです。

肺MAC症の治療

病型	治療レジメン	
●空洞のない結節・気管支拡張型(重症は除く)	A法かB法のいずれかを用いる	
●線維空洞型 ●空洞のある結節・気管支拡張型 ●重度の結節・気管支拡張型	A法:連日投与 クラリスロマイシン or アジスロマイシン エタンプトール リファンピシン	B法:週3日投与 クラリスロマイシン or アジスロマイシン エタンプトール リファンピシン
●難治例(多剤併用療法を6ヵ月以上実施しても細菌学的効果が不十分な患者)	A法に以下のいずれかを併用する アミカシンリポソーム吸入用懸濁液吸入 あるいは ストレプトマイシン筋注 or 注射用アミカシン 必要に応じて外科治療の併用を検討	

日本結核・非結核性抗酸菌症学会 非結核性抗酸菌症対策委員会, 日本呼吸器学会 感染症・結核学術部会. 結核. 2023; 98(5): 1-11.

問合せ先 内科外来 TEL: 0853-20-2381





ご報告

島大病院ニュース 2024年5月



お知らせ

島大病院ニュース 2024年5月

写真1



写真2



記者会見の様子 (右から 心臓血管外科(小児心臓担当) 中田朋宏講師、医療的ケア児支援センター長 安田謙二准教授) 「右肺動脈大動脈起始症」について説明する中田講師

世界初!

重症の先天性心疾患「右肺動脈大動脈起始症」に二つの難病を併発した患者さんの手術に成功しました

総務課企画調査係

新生児や乳児期に見つかることの多い先天性心疾患に加え、二つの難病を併発した30代女性に、2023年7月、当院心臓血管外科(小児心臓担当)中田朋宏講師らのチームは、肺動脈と右肺を人工血管でつないで正常な形にする再建手術を行い、半年後に治癒を確認しました。これほど稀な症状に手術を行い、治癒を確認した例は世界初です。

患者さんは、階段の上り下りで息苦しいなどの症状が出たため受診したところ、肺動脈と大動脈がつながり、心不全を引き起こすおそれのある「右肺動脈大動脈起始症」であることがわかりました。さらに「高度肺高血圧」も併発しており、肺内の血液循環の異常で呼吸困難などの症状を引き起こす「右肺動静脈瘻」も見つかりました。肺動静脈瘻は、先天性の可能性もあり、また肝臓からの血液が右肺動脈に流れていないことによる後天的の可能性もありました。

先天性心臓疾患が原因とみられたため、小児心臓外科、小児循環器外科、循環器内科で連携して治療を進めました。また、過去に類をみない複合的な症例であることから、外部の医師の意見も参考にしながら、患者さんの「リスクがあっても改善する手術を受けたい」という意向を尊重し、チーム医療で10時間に及ぶ大手術に挑み、成功させました。

術後は「高度肺高血圧」も改善し、人工血管により肝臓からの血液が右肺動脈に流れるようになり、「右肺動静脈瘻」も治癒しました。患者さんは現在、元気に日常生活を送られているとのこと。

今回は先天性心臓疾患が成人後に見つかった稀なケースでした。難しい手術でしたが、肝臓からの血液が右肺動脈に流れることにより、合併した症状が治癒したという発見も得られました。日本の先端医療を、当院のチーム医療により地域完結型で提供できました。

問合せ先 総務課企画調査係 TEL: 0853-20-2018

退院後の心不全療養支援のため

「ハートノート」と「心不全ポイント」を導入しました

循環器内科 医師 田邊 淳也
A病棟6階 看護師長 いしとび わかこ
石飛 和歌子

循環器内科では医師、看護師、リハビリスタッフ、管理栄養士、薬剤師、退院支援スタッフなどで構成された多職種チームによる心不全患者の療養支援に取り組んでいます。この枠組みの一環として大阪心不全地域連携の会(OSHEF)に参加し、患者とその家族が退院後も心不全療養を維持できるよう、「ハートノート」と「心不全ポイント」を導入しました。ハートノートは療養指導用の冊子で、指導者が異なっても一貫した教育を提供でき、退院後の知識、指導内容の維持にも役立ちます(図1)。

心不全の状態が崩れてくると水分が体内に貯留し体重が増え、むくみが生じます。体重や血圧、脈拍の記録をしても、どう解釈すればよいのか判断に迷い、受診を躊躇し心不全急性増悪を来してしまうことが少なくありません。心不全ポイントは退院前に設定した体重管理目標に基づき、体重や脈拍数、心不全の症状を簡便に点数化することにより専門知識や経験がなくても早期受診を促すことができ、心不全急性増悪の予防につながります(図2・3)。また心不全ポイントをつけることで、心不全について評価する習慣がつくようになるため、地域との連携強化にも期待しています。島根県では済生会江津総合病院が先行して導入しており、心不全地域連携のモデルとなっています。

図1 実際のハートノート(一部)



図2 心不全ポイントを用いた早期受診のフロー

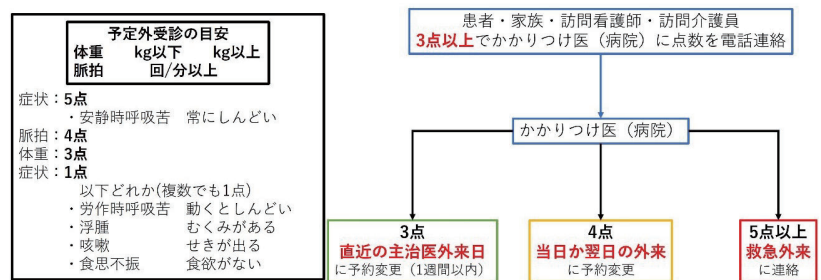


図3 心不全ポイントを用いた心不全病連携のイメージ



問合せ先 循環器内科 事務室 TEL: 0853-20-2249



2024年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2024年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告

島大病院ニュース 2024年5月



ご報告

島大病院ニュース 2024年5月



写真1 乳児に対するBLS



写真2 成人に対するBLS

学生向けBLS講習会を実施しました

医学部医学科5年 庄原 直人
救急医学講座 教授 岩下 義明

3月9日(土)、島根大学の医学生・看護学生に対して第5回目となるBLSプロバイダーコースを開講しました。BLSとはBasic Life Supportの略称で心肺停止に対する一次救命処置のことです。BLSは専門的な器具や薬品などを使う必要がなく、正しい知識と適切な処置の仕方さえ知っていれば誰でも行うことができます。

この企画は学生に対して、授業での学びをより深め、実践的で科学的データに基づく、BLS資格(アメリカ心臓協会認定)を取得してもらうことを目的としています。指導者は県内のインストラクター資格を所持した医療従事者であり、少人数制指導のもと、繰り返しトレーニングを行うことで一日かけてBLSのスキルを磨きます。これにより、医学生には地域の心肺停止患者の救命率を上げると共に、医療従事者としての自覚を持ってもらうことを目指しています。

将来的には島根大学の学生だけでなく島根県内の高校生や大学生にもBLSを普及していきたいと考えております。このコースを開催するにあたり、ご協力いただいたインストラクターおよび関係者の皆様、誠にありがとうございました。

問合せ先 救急医学講座 TEL: 0853-20-2402



2024年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



5年ぶり対面開催!

第14回島根大学医学部附属病院医療連携会議を開催しました

地域医療連携センター センター長 田邊 一明

当センターでは患者ニーズに応じた医療機関相互の連携強化を目指して、2007年から医療連携会議を開催しています。14回目となる今回は3月26日(火)に開催し、新たに島根県立中央病院、平成記念病院を加えた13の病院と、出雲市役所、出雲保健所を加えた計15の施設にご参加いただきました。

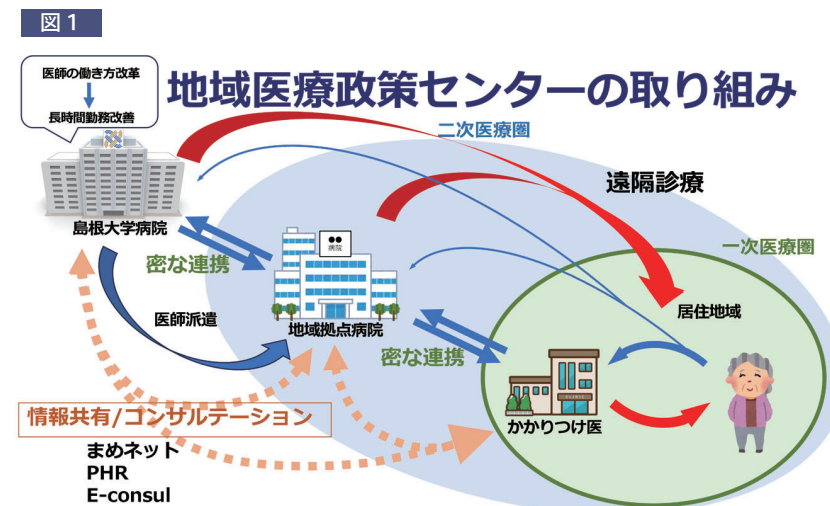
当日は、地域医療連携の現状と課題をテーマに、当院からは退院支援の実績報告のほか、近藤地域医療政策センター長より地域医療政策センターの取り組みについて、E-consulやPHR(Personal Health Record)による情報共有の促進や遠隔診療を通じて、地域や患者ニーズに応じた適切な医療を地域に提供する体制の構築を担っていきたいとの説明がありました(図1)。

また、ご参加の病院からは、院長・副院長、看護師、医療ソーシャルワーカーなど様々な職種の方へ出席いただき、各病院が抱える課題や取り組みをはじめ、後方支援に携わる病院の様々な現場のお声をいただきました。

当院では、本会議でいただいたご意見を受けとめ、地域の医療機関の皆様とより連携を深めていき、住みよい地域となるよう地域医療の活性化を図って参ります。

今後とも、引き続きご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

問合せ先 地域医療連携センター TEL: 0853-20-2061



2024年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2024年5月

ご報告

写真1



写真2



病院ボランティア表彰式・感謝状贈呈式

医療サービス課

当院では、患者さんがより快適な環境で安心して治療を受けていただけるよう、地域の皆様による環境整備や玄関ホールでの案内、患者図書室「ふらっと」の補助、病院1階の生花等、様々な場面で個人および団体のボランティアの皆様にお世話になっています。

3月7日（木）、1年間ご尽力いただきました、8団体と9名のボランティアの皆様には、椎名病院長から表彰状並びに感謝状の贈呈がありました（写真1・2）。

また、贈呈式終了後は懇談会が行われ、日頃ボランティア活動に従事いただく中での感想や、普段職員が見落としてしまうような、貴重なご提案やご意見等もいただきました（写真3）。今後も患者さんの立場に立った医療を提供すべく、改善に努めて参りたいと思います。

当院では、新たにボランティアをしてくださる方を募集しています。お気軽にお問合せください。

写真3



問合せ先 医療サービス課 ボランティア担当 TEL：0853-20-2061



2024年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2024年5月

ご報告

写真1 集合写真



新人看護職員が入職しました!!

かわかみ としえ
看護部長 川上 利枝

桜が満開の中、新しく54名の看護職が入職し、希望と責任を胸に社会人・専門職業人としての新たな一歩を踏み出しました。4月1日（月）からの入職時研修では、すべての医療職が合同で研修を行い社会人・組織人としての職務、病院の概要を理解することから始め、教育体制、チーム医療、医療安全や感染対策等の講義や輸液管理の技術演習、BLS研修、防災訓練を行いました。また、当院に頂いた『患者さんの声』のお褒めの言葉の内容をもとに「患者さんが求めている看護師」についてグループワークを行い、各自が接遇、看護職としての対応を考える機会となりました。

現在、新人看護職は配属部署で先輩看護師の指導のもと、患者さんへのケアを通して社会人として職業人としての楽しさや厳しさを目の当たりにしているところです。看護部の理念である『地域に信頼される質の高い看護の提供』をあるべき姿とし、看護専門職として看護実践能力を身につけて、患者さんに寄り添った看護を目指し頑張っており、皆さま暖かい目で応援をお願いいたします。

問合せ先 看護管理室 TEL：0853-20-2478

写真2 集合研修



写真3 輸液管理研修



写真4 多職種と連携したBLS研修



2024年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告

島大病院ニュース 2024年5月

写真1 表彰者集合写真



写真2 表彰状授与



看護職ジェネラリスト表彰式を行いました

看護部長 かわかみ としえ
川上 利枝

専門職には通常ジェネラリストとスペシャリストが存在し、それぞれが機能を発揮し連携しながら専門性を維持しており、看護職も同様です。看護職におけるジェネラリストとは、特定の分野にかかわらず、どのような人々に対しても経験と継続教育によって習得した多くの看護の知に基づき、その場に応じた知識・技術・能力を発揮できる者です。

近年、患者さんの声からもお褒めの言葉をいただくことが増えています。そのことはスペシャリストの活動のみならず、看護職の多数を占め、看護の質を支えるジェネラリストの貢献が大きいと見え、優れたジェネラリストを表彰することを計画しました。

全看護職員から優れたジェネラリストを推薦してもらい、26 部署から 32 名の推薦がありました。推薦理由としては「常に笑顔で、患者さんに寄り添う姿勢が素敵」「部署の教育係として積極的に勉強会を企画し、スタッフ一人ひとりに丁寧な指導をしていた」など、多くの看護職の見本となる内容でした。

推薦された 32 名の看護職の貢献を称え、3月6日（水）ジェネラリスト表彰式を行いました。表彰者は、一緒に働く看護職員から推薦してもらったことから誇りに満ちた良い表情をしており、明るく和やかな雰囲気の中での表彰式となりました。

お互い切磋琢磨しながら、看護部の理念である『地域に信頼される質の高い看護の提供』に向け、引き続き努力していきたいと思えます。

問合せ先 **看護管理室** TEL : 0853-20-2478



2024年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告

島大病院ニュース 2024年5月

写真1



写真2



世界3か国から
8チームの参加が
ありました!

(PQJ2024)

島根大学主催 生理学クイズ日本大会のご報告

医学部医学科4年 PQJ2024運営委員会 代表 うえだ だいすけ
上田 大輔

PQJとは「Physiology Quiz in Japan」の略で、国際生理学クイズ日本大会です。世界各国から集った大学生がチームを組み、英語で医学・生理学の知識を競い、頂点を目指します。参加条件は「大学生であること」のみ。学部、学年、国籍を問わず世界中の大学生と親睦を深めることができます。

そのPQJ2024が、3月24日（日）に開催されました。第8回となる今大会は、島根大学PQJ2024運営委員会が主催。4年ぶりの現地開催が実現し、日本、インドネシア共和国、スロベニア共和国から27人の大学生が島根大学出雲キャンパスに集い、8チームで優勝を争いました（写真1）。

全4ラウンドの激戦の末、前大会でも1位を獲得したリュブリャナ大学（スロベニア共和国）の「Metabolic Masters」が2年連続の優勝を果たしました。主催の島根大学チームは準優勝、昨年度PQJ2023を主催した札幌医科大学のチームが3位となりました（表1）。

クイズ大会後には懇親会を開催し海外や日本全国から集まった参加者たちが、和やかな雰囲気の中で交流を楽しみました（写真2）。様々な背景を持ちながらも、共通の趣味であるクイズを通じてお互いを理解し合い、信頼関係を構築することができたと感じています。

表1 PQJ2024結果

順位	大学名	チーム名
1位	リュブリャナ大学(スロベニア)	Metabolic Masters
2位	島根大学	Shimane family
3位	札幌医科大学	SMUth muscle
4位	東北大学	Babubabu medicine
5位	香川大学	UDON STORM

問合せ先 **学務課学生支援・総務担当** TEL : 0853-20-2088



2024年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告

島大病院ニュース 2024年5月

『新生児マススクリーニング講習会2024』 を開催しました

検査部 講師 こばやし ひろのり
小林 弘典

3月3日(日)に、島根大学医学部臨床小講堂にて難病総合治療センター検査部門主催の『新生児マススクリーニング講習会2024』を開催しました。本年の講習会では「マススクリーニングの新しい動き」をテーマに、当院小児科・検査部から3名の講師に加えて、公立邑智病院病院長(本学小児科学講座名誉教授)山口清次先生、島根県健康推進課の片岡大輔課長、鳥取大学より栗野宏之先生をお招きし、充実した講習会となりました。なかでも、重症複合免疫不全症(SCID)と脊髄性筋萎縮症(SMA)については国主導の実証事業が開始される事もあり、大きな関心が寄せられていることが実感されました。



各講師より島根県におけるマススクリーニングに対する取り組みや、検査の内容及び重要性、今後の課題等についてお話いただいた他、栗野宏之先生による特別講演では、脊髄性筋萎縮症患者の治療に当たられたご経験を踏まえ、早期検査・診断・治療の重要性と今後の課題などを、動画も交えて大変分かり易くお話いただきました。

本年も、学内の会場とWEB会議によるハイブリッド形式にて開催しましたが、年度末にもかかわらず、産婦人科・小児科医師、看護師、助産師、臨床検査技師など約90名に参加いただき、大変盛大な講習会となりました。この場をお借りして、参加いただいた皆様、ご協力いただいた関係者の皆様にお礼申し上げます。

当センターでは、全国でも唯一の大学病院内にある新生児マススクリーニング検査室として、今後も島根県内の安定した新生児マススクリーニングを提供するとともに、行政とも連携をとりながら新しい検査等に関する最新情報を市民の皆さまや医療関係者にお伝えしたいと思います。

問合せ先 検査部事務室 TEL: 0853-20-2409



質疑応答



特別講演



2024年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告

島大病院ニュース 2024年5月



世界緑内障週間「ライトアップinグリーン運動」 出雲大社、日御碕灯台などをライトアップしました

眼科学講座 くろめ なおこ
黒目 奈穂子

3月10日(日)～16日(土)の世界緑内障週間に、出雲大社、日御碕灯台、山陰中央テレビ(TSK)本社鉄塔、山陰合同銀行本店ビルおよび島根大学臨床講義棟玄関前、山陰両県の多数の医療機関を緑内障のシンボルカラーであるグリーンにライトアップしました。

この運動は、多くの方に緑内障について、認知・理解と緑内障の発見のための受診の重要性を広く知っていただくための啓発活動です。

昨年に続き、当科が運動の事務局となっており、今年は総施設数 1,501 か所と大きく運動の輪を広げることが出来ました。

伝えたいメッセージは、「早期発見・治療の継続・希望」です。「希望」には仲間や家族や主治医など支える人とともに治療をして「あなたの眼がずっと見えていますように」という思いを込めています。

この運動が緑内障の早期発見そして失明予防につながることを願って、今後も続けていきたいと思っています。

問合せ先 眼科学講座事務室 TEL: 0853-20-2284



2024年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





医学部・看護学科合同オリエンテーション

令和6年度 医学部

新入生オリエンテーションを実施しました

学務課学生支援・総務担当

4月3日(水)、4日(木)の2日間の日程で医学部新入生のオリエンテーションを実施しました。オリエンテーションは、学生生活を送るうえで必要となる事を知り、スムーズに学生生活が始められることを目的として行っています。

4月2日(火)の入学式は松江市のくにびきメッセで行われたため、新入生にとって、この日が出雲キャンパスへの初めての登校となり、まだまだ緊張した様子の学生も多く見られました。

オリエンテーション1日目は、学務課からの授業の履修など各種手続きの説明や、先輩学生から学生生活のアドバイスを受けました。

2日目は、石原医学部長の挨拶から始まり、「日々の勉強を頑張ることはもちろんのこと、課外活動にも積極的に取り組み、学生の頃から様々な人と関わる経験をしてほしい」と新入生にメッセージを送られました。その後、複数の教員から講義を受けました。2日目午後には1年生をあらゆる面からサポート・指導する指導教員の先生方との顔合わせもありました。

新入生には、島根大学で過ごす学生生活の中で、さまざまな経験を得て成長してくれることを期待しています。

問合せ先 学務課学生支援・総務担当 TEL: 0853-20-2088

